

●童謡「唄を忘れたカナリア」のように人は誰でも、置かれた環境にストレスや困難を覚え、昔に戻りたいと思うような苦しい時期も経験いたします。しかし、神様はそんな辛い経験を通して、神様の驚く力と恵みを味わい知ることへと私たちを導き、一人一人に「新しい歌」を与えてくださるのです。

●聖書の民イスラエル民族も喜びの歌を歌えなくなった時代があったのです。「新しい歌を主に向かって歌え」で始まる今日の詩編 96 編には全世界を震わすようなあふれる喜びが歌われていますが、この詩編の「七十人訳聖書」には「イスラエルの民がバビロン捕囚から解放された時の唄である」という説明がきき記されています。バビロニアによって囚われの身となり、自由や思想を奪われる生活が半世紀近く続いた後に、ペルシャの王キュロスによる解放という、全く想像もしていなかった出来事を与えられ、そこに神の驚くべき御業を感じ、深い喜びを与えられたのです。この「新しい(ハダシュ)」は詩編では、神による解放に関連して使われることが多く、神の救いに基づいた新しい歌を表しているのです。

●イエス様は山上の説教の中で「今貧しい人、飢えている人、泣いている人は幸いです」とおっしゃいました。それは辛い時こそ主に出会う時だという事なのです。この世のものに依存する喜びはいつか消えうせますが、決して消えない喜びをイエスキリストは私たちにくださると新約聖書は告げているのです。これこそが私たちに与えられた究極的な「新しい歌」です。

●私が新潟の老人福祉施設で働いていた頃、ある方が亡くなられる前、ベッドの上で涙を流しながらこう仰いました。「私はこれまで生きてることが当たり前だと思っていました。でも今になって朝、目が覚めるということがありがたい事だという事に気がつきました。神様に共にいてくださるイエスさまに感謝です。」

たとえ死を前にしても、神を信じ、イエスキリストを近くに感じることができるなら、私たちは「新しい歌」を歌うことができるのです。

人には時に歌を歌えなくなるような時があり、以前のように感謝できないと思うことがあります。しかし、古い歌が歌えなくなったその時こそ、全く新しい想像もできなかったような歌が与えられることを信じ、共に主を賛美礼拝して歩む私たちでありたいと願います。